

猫神様～酒井明 説話集6※～

あちらこちらまわりよると、いろんな神様仏様が祀ってあるのに出会います。

こんなところにも思う様な所に祠があったり、大きな岩のたもとにお供物がしてあったり、どれも色々ないわくが伝えられていて、昔の人々の信仰の厚さを物語っています。

伊予野に出向いた時、山続きの大きな椎木林の中に祠がひとつ建っていました。同行の方が、猫神様だと教えて下さいました。

近頃はジャコの頭も除けて食べる人がある程で、魚の骨を喉にたてるということはあまり聞きませんが、以前は小魚の骨が喉に刺さってご飯を丸ごとひんのんでもとれなくて騒動することがよくありました。

そんな時、猫神様にお願いすると不思議とよくとれるので、なかなかいつもお参りに来る人が多かったということです。

ささった骨がとれたら、そのお礼に川の魚を持って行く。湊や大海、小筑紫と漁場も近いところですが、どうしたことか川の魚となっていたようです。

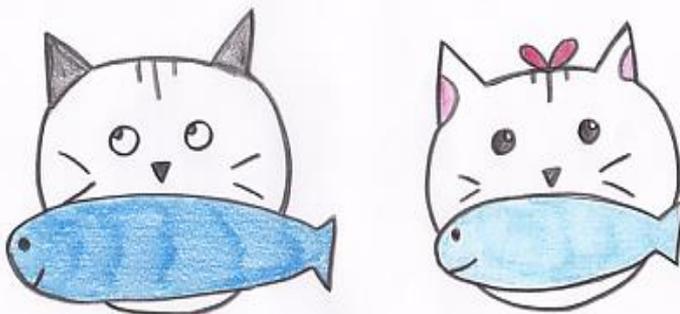
伊与野川が、ちょうど下を流れているのでそうなったのか、猫が川魚の方を好きだとみたのか、そこら辺は分かりませんが面白い神様です。

どこの猫でも、魚の嫌いなのはそうそうおりもすまいし、口の中など少々骨がささっても、ちょっと後ずさりする様にしてゲボゲボしたり、両手を使うて口の中を探るようにしたら、後はけろっとしてまた食べる。

そんなことから骨とり名人変じて、神様の座に祀られたのかもしれない。

猫神様に頼んだからそのうちとれる、という気持ちが痛みも和らげ、そうこうしているうちに自然ととれる。それも猫神様の功德だったのかもしれない。

そんなことであちこちと、霊験あらたかな神々が祀られてきたのではないのでしょうか。



※) 平成 26 年 3 月に逝去された宿毛市出身の酒井明さんは、長年教鞭をとる中で地域伝承や動植物の生態のフィールドワークを重ね、退職後も宿毛市文化財保護審議会(当時)長などを歴任、益々研究を深めながら観察日誌や説話、伝承技術などを膨大な手書き原稿にまとめられました。

ご遺族より宿毛歴史館に寄贈された原稿から、順次「酒井明説話集」として公開してまいります。